

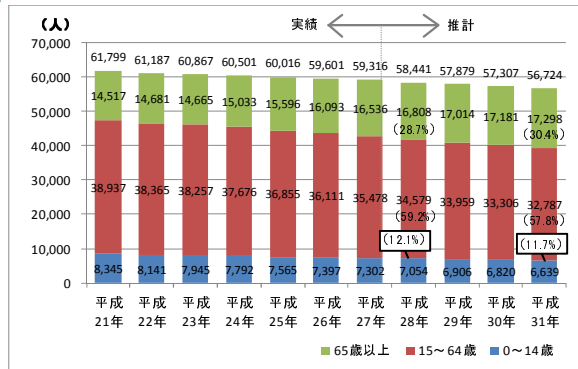
**中和幹線栗殿近隣
（医療・福祉・防災の新拠点施設）
周辺地区まちづくり基本構想**

平成27年11月20日

桜井市全体及び各中学校区における現状と課題

(桜井市全体の人口の推移と推計)

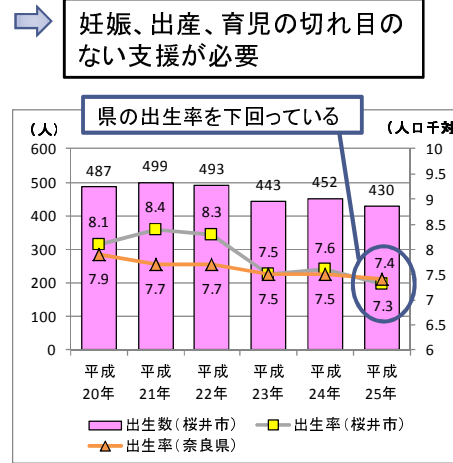
- ・総人口は年々減少、かつ、少子高齢化が進行
- ・年齢3区分別人口構成について、0～14歳の割合は微減傾向、65歳以上の割合は増加



資料：住民基本台帳
(各年3月末現在 平成21～平成24年は外国人人口を加味)
※推計人口は住民基本台帳を元に計算したもの

(桜井市全体の出生数及び出生率 (人口千対)の推移)

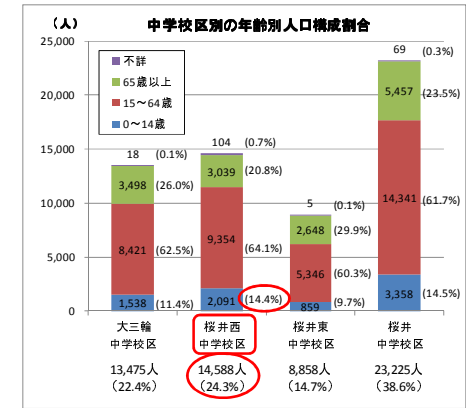
- ・出生率は、平成25年に県の出生率を下回る



資料：奈良県衛生年報

(中学校区別の人数・割合)

- ・市全体の人口約6万人のうち、桜井西中学校区は約1.5万人(約25%)である
- ・桜井西中学校区は、15歳未満の人口割合が14.4%と高い



資料：平成22年国勢調査

(桜井市中学校区別高齢者数・割合)

- ・桜井西中学校区(中和幹線栗殿近隣)の高齢者率は桜井市全体と比較して低い

- ・地域的な高齢者率のかたよがりがあるため、各中学校区における地域包括支援センターをコーディネートする拠点施設の設置が必要
- ・在宅医療の充実や桜井市全体での地域包括ケアシステムの構築が必要

	人口	高齢者人口	高齢者率
桜井市全体	59,984人	16,124人	26.88%
桜井中学校区	23,722人	5,816人	24.51%
桜井東中学校区	7,835人	2,798人	35.71%
大三輪中学校区	12,977人	3,870人	29.82%
桜井西中学校区	15,450人	3,640人	23.55%

(桜井西小学校区年齢構成割合)

- ・0歳～14歳の子ども、20歳～39歳の子育て世代とも、桜井西小学校区(中和幹線栗殿近隣)が市全体と比較して割合が多い(2%～4%)
- ・ただし、H16年と比較すると年齢構成割合の減少率が大きいことから、他区または市外への転出の可能性あり

- ・不足している子育て機能の分析および子育て支援の充実が必要

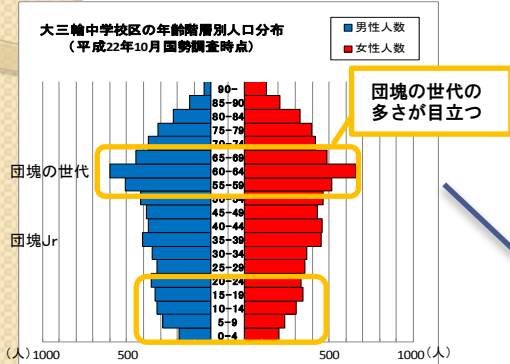
	0歳～14歳		比較	20歳～39歳		比較
	西小学校区地区	桜井市全体		西小学校区地区	桜井市全体	
H16.3.31	17.6%	14.5%	+3.1	29.2%	25.3%	+3.9
H21.3.31	17.2%	13.5%	+3.7	27.6%	24.2%	+3.4
H26.3.31	14.9%	12.4%	+2.5	24.1%	22.0%	+2.1
	-2.7%	-2.1%		-5.1%	-3.3%	

桜井市全体及び各中学校区における現状と課題

(中学校区別の年齢階層別人口分布)

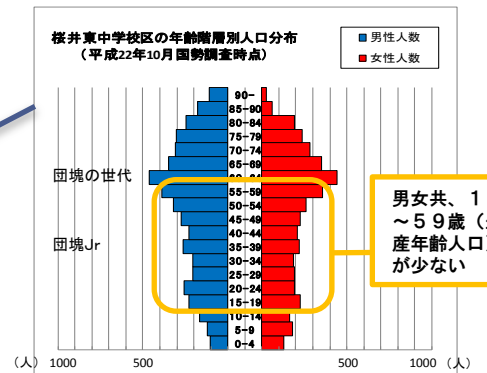
- ・大三輪中学校区は、団塊の世代の多さが目立つ。
- ・桜井西中学校区は、25～49歳(子育て世代)が多く、比例して子供も多い。
- ・桜井東中学校区は、桜井市内では最も人口が少ない。特に15～59歳(生産年齢人口)が少ない。
- 桜井中学校区は、桜井市内では最も人口が多い。特に25～49歳(子育て世代)が多く、比例して子供も多い。

(大三輪中学校区) 三輪以北地域



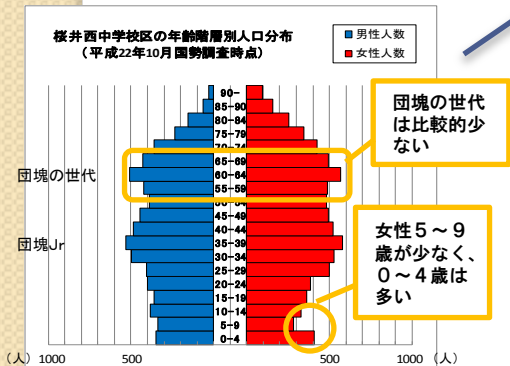
- ・団塊の世代が多く、若年世代が少ない

(桜井東中学校区) 朝倉以東地域



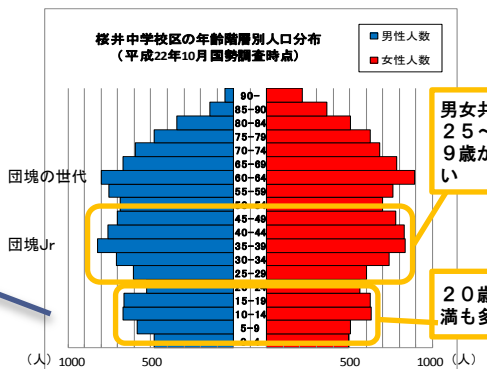
- ・桜井市内では最も人口が少ない校区
- ・男女共、15～59歳(労働人口)が少ない

(桜井西中学校区) 桜井駅北・市役所周辺～大福地域

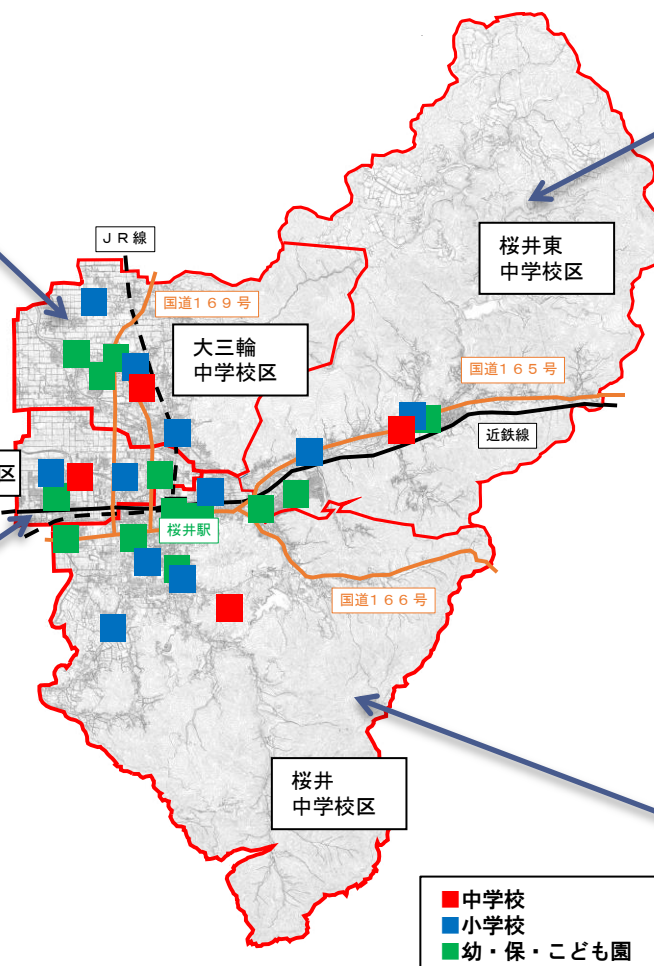


- ・団塊の世代は比較的少ない
- ・25～49歳(子育て世代)の人口が多く、比例して子供も多い。

(桜井中学校区) 桜井駅南～多武峰地域



- ・桜井市内では最も人口が多い校区
- ・25～49歳(子育て世代)の人口が多く、比例して子供も多い。

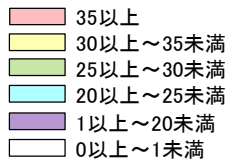


中和幹線栗殿近隣(医療・福祉・防災の新拠点施設)周辺地区における現状と課題

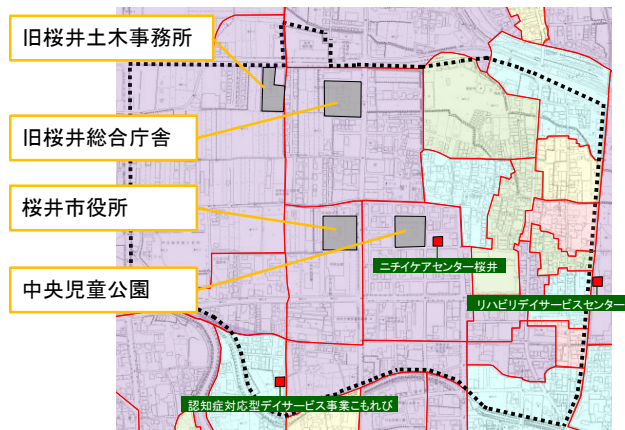
(中和幹線栗殿近隣周辺地区の人口割合)

○65歳以上

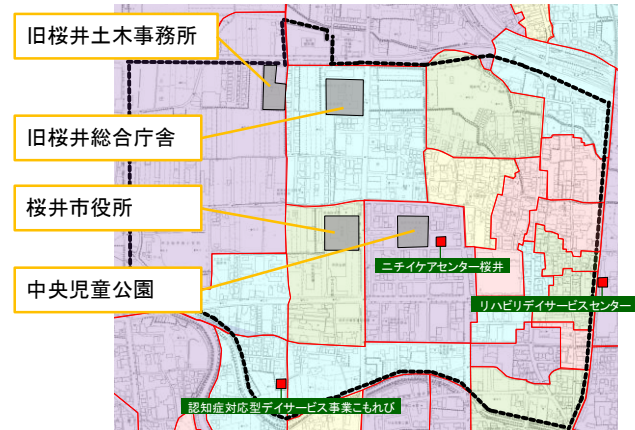
65歳以上人口の割合



〔平成17年国勢調査時点〕



〔平成22年国勢調査時点〕

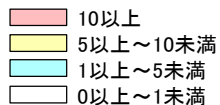


(地域の特徴)

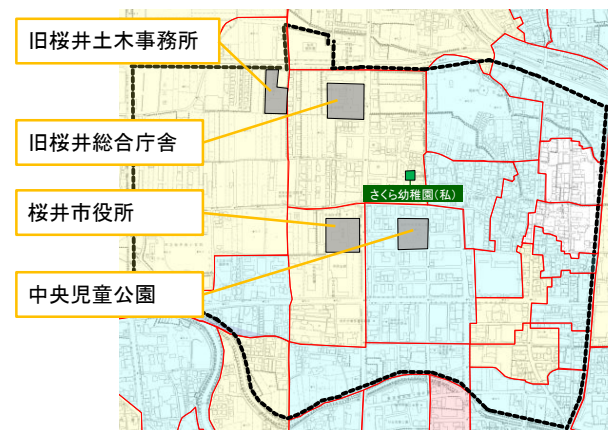
- ・全体的には高齢人口割合の低い地域である。
- ・高齢者の割合が高い地域は、旧市街地に集中している。また、徐々に西側へも広がりがつつある。

○5歳未満

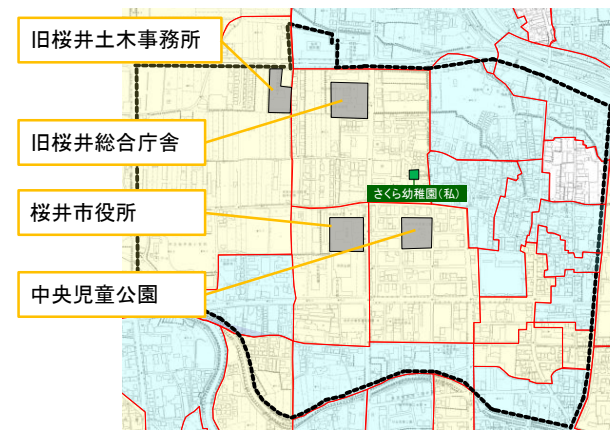
0～4歳人口の割合



〔平成17年国勢調査時点〕



〔平成22年国勢調査時点〕



(地域の特徴)

- ・全体的には子ども人口割合の高い地域である。
- ・中央児童公園周辺の地区については、近年、人口割合が増加している。

まちづくりのコンセプト

目指す将来ビジョン

基盤となる取り組み等

子育て世代・高齢者をはじめ、人にやさしい医療・福祉・防災の拠点づくり

子育て支援の拡充、在宅医療の充実、地域包括ケアシステムの構築、健康づくり、消防力の向上、救急医療連携の充実

【医療・福祉の新拠点：旧桜井総合庁舎】

- ・市内各所に点在している「医療・福祉」「子育て」「健康」の機能集約・連携強化
- ・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援
- ・地域包括ケアの専門部署を設置し、地域包括支援センター間をコーディネート
- ・乳幼児保健の利便性向上、広いスペースを確保
- ・山の辺の道ウォーキングの新しい起点とした観光案内機能
- ・サイクリングターミナルを設置し、ならクル利用者によるにぎわいづくり

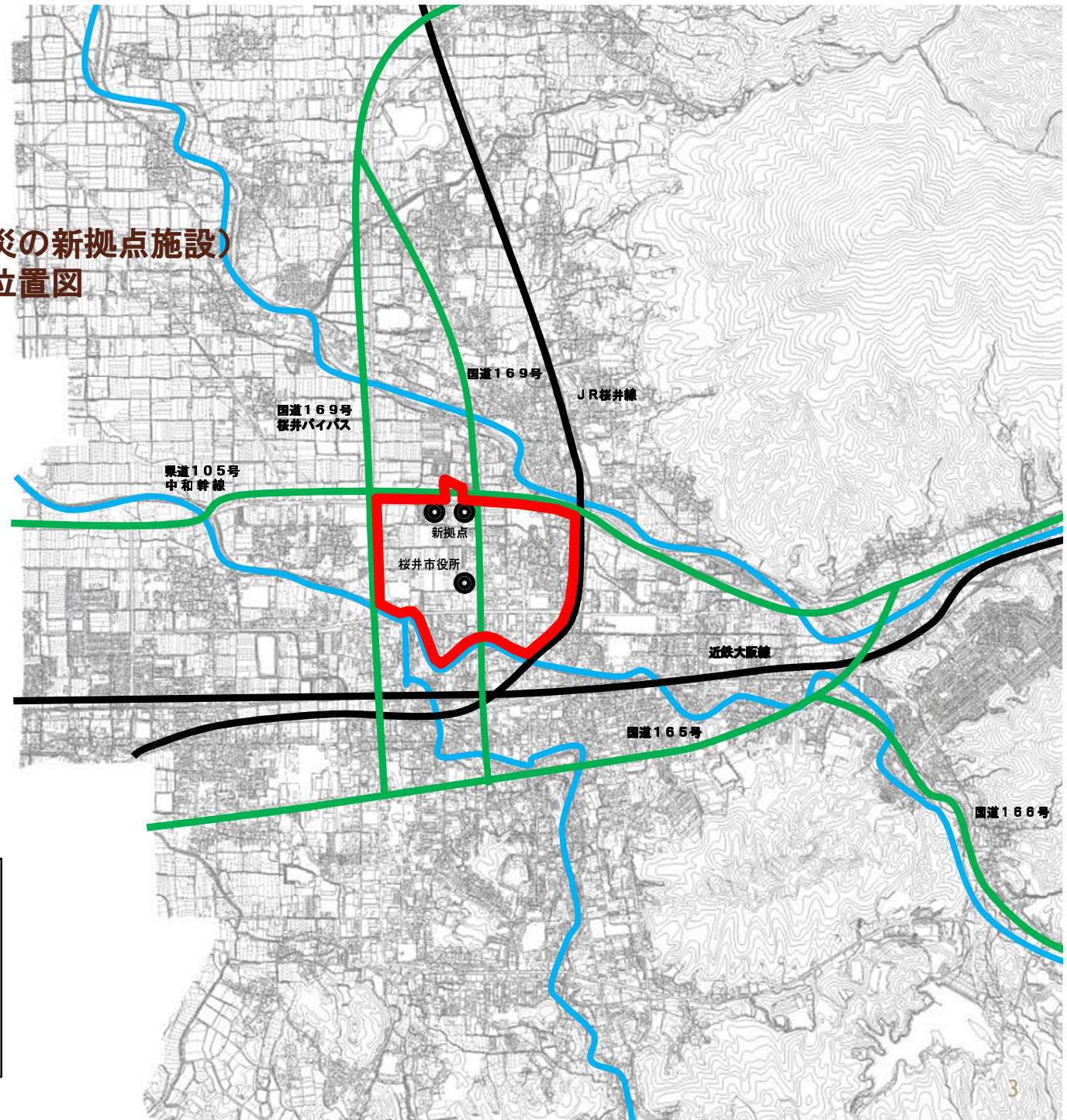
【防災の新拠点：旧桜井土木事務所】





- ・桜井消防署を機能移転し、奈良県中央部、東部の消防防災の拠点化
- ・休日応急診療所(旧桜井総合庁舎)の近接による救急医療連携の充実

【新拠点周辺のまちづくり】

- ・公園整備による子育て支援や健康づくり
- ・市内ウォーキング・サイクリングルートの新設による健康づくり
- ・子どもの一時預かり機能の充実
- ・歩道整備など利用者にやさしい動線の確保

中和幹線粟殿近隣
(医療・福祉・防災の新拠点施設)
周辺地区 位置図



まちづくり 対象区域	
鉄 道	
主な道路	
主な河川	

中和幹線栗殿近隣(医療・福祉・防災の新拠点施設)周辺地区まちづくり構想図

防災の新拠点
消防力の向上、救急医療連携の充実

「医療・福祉」「子育て」「健康」
の機能集約・連携強化
休日応急診療所の移転

医療・福祉の新拠点
子育て支援の拡充、在宅医療の充実、
地域包括ケアシステムの構築、健康づくり

歩道整備
利用者にやさしい動線の確保

歩道の段差解消

地域住民の身近な
憩いの場の充実

桜井中央児童公園
子どもや子育て世代をはじめ、
多世代が楽しむことができる公園づくり

【凡例】

- ：まちづくり対象区域
- ：市コミュニティバス路線
- ：桜井駅～拠点施設の歩道
- ：サイクリングルート(既存)
- ：サイクリングルート(新設)
- ：山の辺の道誘導ルート(新設)
- ：ウォーキングルート(新設)
- ：歩行動線の確保
- ：公共施設(既存)
- ：公共施設(新設)
- ：子育て・健康機能(既存)
- ：子育て・健康機能(新設)
- ：歩行動線(既存)
- ：歩行動線(段差解消)

